

## エステ市国際空港建設事業



本事業により建設された空港ターミナル

### [ 借 款 概 要 ]

承諾額/実行額	11,300百万円 / 10,672百万円
借 款 契 約 調 印	1980年12月
借 款 契 約 条 件	金利4.25%、返済25年（据置7年）
貸付完了	1994年12月

### [ 事 業 概 要 ]

パラグアイ東部の中心都市エステ市において、新国際空港を建設することにより、交通・輸送需要の増加に対処するもの。

### [ 評 価 結 果 ]

南米の内陸国パラグアイにとって、交通網の整備は開発計画における重要課題である。本事業は東部地域にある同国第二の都市エステ市において、同地域への輸送需要の増加に対処するため、首都アスンシオンに次ぐ国際空港を建設するものであった。

本事業により、B747クラスの大型航空機が離着陸可能な空港施設（滑走路3,400m×1本、誘導路、旅客・貨物ターミナルビル、航行援助施設等）が建設されたが、第二次石油ショックによる事業費の増加とスコープの見直しのため、事業の完成は大幅に遅延し1993年8月となった。

新空港の運営については、中南米各国の経済停滞や東部地域開発の遅れ等を背景として、旅客数は計画値の約1割に留まっている。他方、航空貨物は計画値に近い水準を維持して来たが、1998年以降は経済悪化を反映して減少傾向にある。

なお、空港施設の維持管理については良好であり特段の問題は見られない。